

今後の科学技術人材政策の方向性について －スーパーサイエンスハイスクール 支援事業の在り方について－

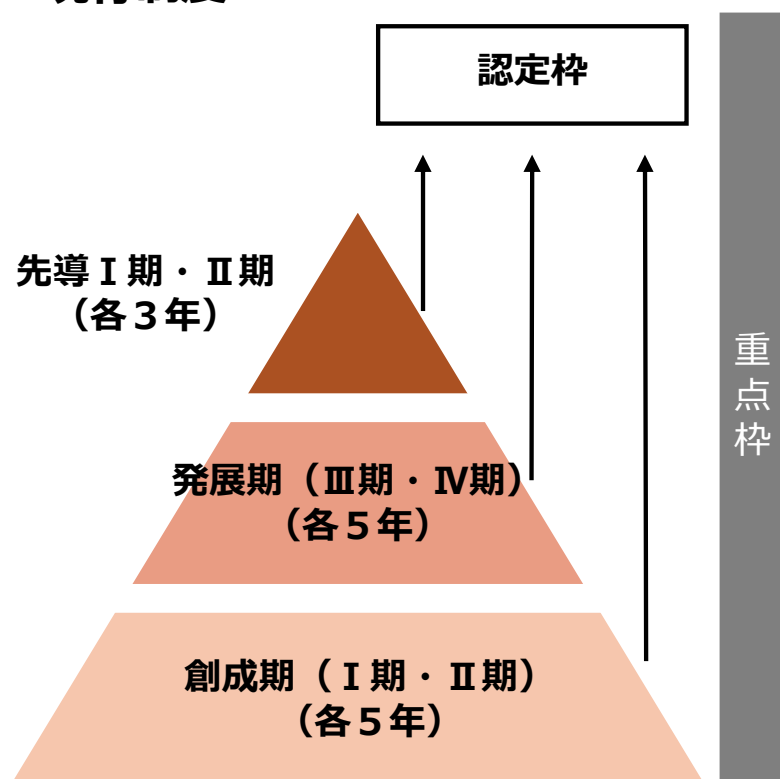
令和7年12月
科学技術・学術政策局
人材政策課

(参考) 今後のスーパーサイエンスハイスクール支援事業の在り方 (案) ①

科学技術・学術審議会 人材委員会
「今後の科学技術人材政策の方向性
(中間まとめ)」概要 抜粋

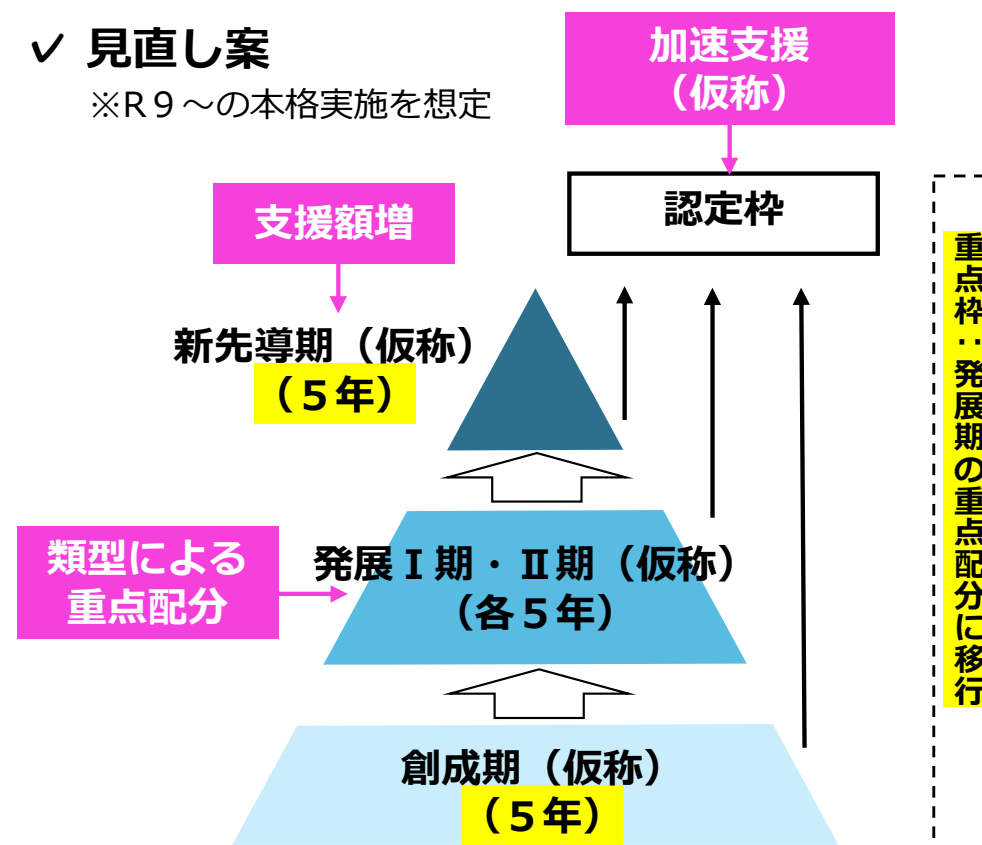
- 指定校が230校に到達し、多様化が進んでいることを踏まえ、全ての指定校を、期に応じて一律の支援額により一律に取り扱う現行制度を見直し、SSH指定校の中に、**SSH事業の中で目指す人材育成戦略等**に応じた**類型**を設けるとともに、類型に応じて、**申請時に求める到達度や、特に期待する取組等**を設定。支援額についても差を設けることを検討。
- **課題研究の一層の深化・高度化や、チャレンジングな取組に挑戦**しようとする学校への支援をより手厚くし、**各指定校の取組の高度化、先導期レベルに至るまでの期間の加速**を促す。また、類型の設定を通じ、非指定校等が理数教育の充実に取り組もうとする際に、**自らのモデル・目標となるSSH指定校をわかりやすくすることで、成果の横展開の加速を図る。**
- 全体として、創成期から先導期までの財政支援期間を、最大26年から最大20年に短縮する一方で、認定枠指定校に対する「**加速支援**」制度の新設、**先導期や発展期の一部類型への支援金額増**により、**メリハリある支援**を実施。

✓ 現行制度



✓ 見直し案

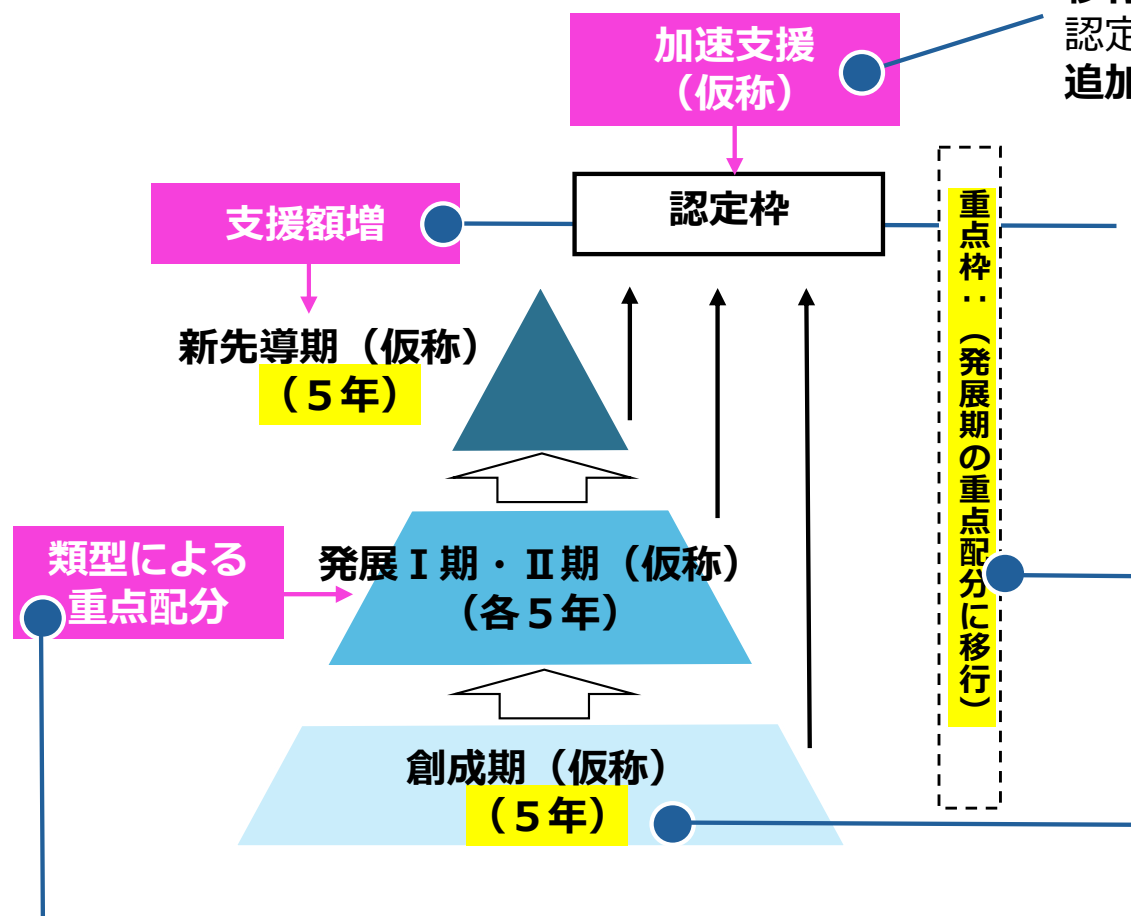
※R9～の本格実施を想定



(参考) 今後のスーパーサイエンスハイスクール支援事業の在り方 (案) ②

科学技術・学術審議会 人材委員会
「今後の科学技術人材政策の方向性
(中間まとめ)」概要 抜粋

✓ 見直し案



優れた理数系教育を継続してきた指定校が、**認定枠に移行後も取組を高度化していくことができるよう**、認定枠の指定校を対象に、その後の状況変化に応じ、**追加の研究開発等を行いたい場合の支援を新設**。

科学技術人材養成の在り方を先導するような、一部の卓越した取組については、発展期の後も継続して支援。**先進的な教育課程の研究開発に腰を据えて取り組むことができるよう**、3年間×2期を、5年間×1期に再編するとともに、**支援金額を増額**。

従来の重点枠システムを見直し、これまで重点枠で取り組んできた**海外連携や広域連携等に、より多くの指定校が基礎枠の中で取り組むことができるよう**、発展Ⅰ期・Ⅱ期の一部の類型に対する重点配分システムに移行。

従来のⅠ期～Ⅳ期を再編し、先導期に至るまでの期間を加速。

発展Ⅰ期・Ⅱ期には、**目指す人材育成戦略等に応じた類型を設ける**【※詳細は次頁】とともに、支援金額についても差を設けることを検討。

創成期から先導期までの財政支援期間は最大26年から最大20年に短縮となる一方、認定枠移行後もSSH指定校としての優れた取組を継続し、我が国の理数系教育を牽引する学校については、「加速支援」として、追加の研究開発等に対する支援を実施。特に、国内外の多くの他高校等と連携した取組を行おうとする認定枠指定校については、高額の支援の実施も検討。

(参考) 今後のスーパーサイエンスハイスクール支援事業の在り方 (案) ③

科学技術・学術審議会 人材委員会
「今後の科学技術人材政策の方向性
(中間まとめ)」概要 抜粋

- 発展Ⅰ期・Ⅱ期については、SSH事業の中で目指す人材育成戦略等に応じた類型を設けるとともに、類型に応じて、申請時に求める到達度や、特に期待する取組等を設定。支援金額についても差を設けることを検討。

【類型のイメージ】

SSHの目的：将来のイノベーションの創出を担う科学技術人材の育成
理数系の教育課程の改善に資する実証資料の獲得

類型① (案)

地域や学校の特色を生かし、科学的な探究活動に全学的に取り組むことを通じて、社会で活躍する高度科学技術人材の育成を目指す指定校

<特に期待する取組の一例 (案)>

- 「理数探究基礎」「理数探究」等の科学的な探究活動を全校生徒を対象に3年間設定
- 地域や学科の特色を生かした探究活動・課題研究の実施、他校への発信・共有

など

類型② (案)

将来、研究職として産学で活躍する人材をはじめ、理数系の知識・技能を活用し、科学的な探究活動を高度に遂行できる人材の育成に特に重点を置く指定校

<特に期待する取組の一例 (案)>

- 国際交流の積極的な実施
- 大学や企業等との共同研究の実施
- 大学院進学率・進学希望率の上昇、博士号取得者数の増加に向けた取組の強化
- 発展的な内容を扱う理数系科目の開設

など

類型③ (案)

国際感覚に優れた高度科学技術人材の育成に積極的に関わり、同時にSSHとしてのリーディングな取組に挑戦する指定校

<特に期待する取組の一例 (案)>

- 類型①、②の内容に加えて、
- 国際共同研究の積極的な実施
 - 国際会議・大会への参加
 - アドバンスドプレイスメントの実施

など

一部の類型については、前期の中間評価において一定以上の評価を得ていること等、申請にあたっての要件を設けることも検討。

今後の検討スケジュール

本「中間まとめ」において示した全体的な見直しの方針を踏まえた、より詳細な制度設計については、スーパーサイエンスハイスクール企画評価会議において検討。見直しの本格的な実施は令和9年度を想定しつつ、令和8年度においても一部、先行的な実施が可能となるよう調整を進める。

類型①（SSH-Core）（仮）

地域や学校の特色を生かし、科学的な探究活動に全学的に取り組むことを通じて、社会で活躍する高度科学技術人材の育成を目指す指定校

⇒創成期で確立した自らの強み・特色を深化・恒常化するとともに、成果を域内外に普及し、地域における理数系教育の中核拠点として、将来科学技術人材となる生徒を育成

類型②（SSH-Professional）（仮）

将来、研究職として産学で活躍する人材をはじめ、理数系の知識・技能を活用し、科学的な探究活動を高度に遂行できる人材の育成に特に重点を置く指定校

⇒大学・研究機関・企業等との継続的な研究交流による指導の高度化や、他者と切磋琢磨する機会の拡充等を通じ、科学技術に対する深い理解と洞察、論理的思考力を持つ生徒を育成

類型③（SSH-Global）（仮）

国際感覚に優れた高度科学技術人材の育成に積極的に取り組むと同時に、SSHとしてのリーディングな取組に挑戦する指定校

⇒海外の大学・研究機関・企業や国際機関との研究交流等の機会の確保を通じ、国際コミュニティの中で、科学を起点にし、探究や共創を進める力を持つ生徒を育成

各類型に特に期待する取組

SSHガイドラインを踏まえつつ、各指定校の強み・特色を生かした先進的な理数系教育の取組として、指定校及び管理機関が必要と考える多様な取組（※1）

例

- 「理数探究基礎」「理数探究」等の科学的な探究活動を全校生徒を対象に3年間設定
- 研究機関訪問やフィールドワークの実施
- 国際交流や科学英語の推進
- 高大連携、外部人材の活用
- 教科融合型の学校設定科目の設置、各教科における探究活動の拡充
- 科学部等、理数系の教育課程外活動の振興、教育課程内活動との連携の促進
- 教材や指導法、評価方法等の開発、成果の発信

※1 科学的な探究活動を全校生徒を対象に3年間設定することや、学校全体で組織的に研究開発に取り組む校内体制の構築など、全学的にSSHに取り組むことについては、全ての類型に期待。

※2 ◎は、指定の5年間を通して取り組むことを必須とするもの。○は例示であり、これに限らず、各指定校及び管理機関において各類型が目指す人材の育成に有効であるとする取組を戦略的・体系的に検討・実施いただきたい。

※3 海外の高等学校の外国人生徒との研究交流を想定しているが、例えば海外の大学等による研究指導への関与等、交流の質を引き上げるための工夫についても期待。

※4 発展Ⅱ期は指定初年度から開始すること、発展Ⅰ期は指定の5年間のうちに移行することを必須とする。なお、「科学的な探究活動」とは、共通教科「理数」（理数探究基礎・理数探究）や、科学的な探究のプロセスや手法等の下、探究活動を行う教科科目（探究活動及びその探究活動の基盤となる知識・技能等の修得を一体的に行う学校設定教科科目等を含む。）のことをいう。

（※2）

◎ 大学・研究機関・企業の研究者等による恒常的なサポート体制の構築や、博士教員の活用等による、課題研究の指導強化

◎ 共同研究や共同プロジェクト等、大学・研究機関・企業等と連携した、継続的な取組の実施

◎ 研究発表会・コンテストへの積極的な参加

のほか、

○ 発展的な内容を扱う理数系科目の開設

○ ロールモデルとの交流や研究室訪問

等、類型②が目指す人材の育成に有効であると指定校及び管理機関が考える取組の充実・強化

（※2）

◎ 海外の大学・研究機関・企業や国際機関等との研究交流（生徒への研究指導等）

◎ 複数の海外校を交えた外国語での研究発表会の開催や、海外校との国際共同研究の実施等、海外校との積極的な研究交流の実施（※3）

◎ 国際会議・大会等、研究発表会・コンテストへの積極的な挑戦のほか、

○ 科学英語の学習機会、外国語によるプレゼンテーション・ディスカッションの機会の一層の充実

○ 発展的な内容を扱う理数系科目の開設や課題研究の指導の充実

等、類型③が目指す人材の育成に有効であると指定校及び管理機関が考える取組の充実・強化

○ アドバンスプレイスメントの実施をはじめとする学校外学修制度を積極的に活用した教育課程の開発

○ 域内外の他校の教員の指導力向上、域内外の他校を交えた発表会の開催等、管理機関とも連携した、全国的な理数系教育のレベルアップへの貢献

○ 卒業生の追跡調査の精緻な実施・分析

等、発展期のSSHを先導する取組の提案・推進

◎ 「理数探究基礎」「理数探究」等の科学的な探究活動が全校生徒を対象に3年間設定【3年間を通じて5単位以上】された教育課程を実施すること（※4）

類型②、③の指定にあたっての
必須要件

○ 前期の中間評価において原則として、上位3段階以内の評価を受けていること（ただし、上位4段階目であって、指摘事項に関して十分な改善を図っていると審査において認められる場合も、指定対象に含める。）

目的

- 先進的な理数系教育や、文理融合領域に関する研究開発を実施している高等学校等を、「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」に指定し支援することを通じて、将来のイノベーションの創出を担う科学技術人材の育成を図る。
- 高等学校等の理数系の教育課程の改善に資する、実証的資料を得る（学習指導要領の枠を超えた教育課程の編成を可能に）。

事業概要

<SSHとしての指定>

【基礎枠】

- 令和8年度指定校数：
240校程度（うち認定枠：22校）
（うち新規：38校（うち認定枠：5校））
- 指定期間：各期原則5年
- 支援額：6百万円～12百万円/年
- 類型
- <基礎枠> 自然科学を主とする先進的な理数系教育に関する研究開発を実施。
- <文理融合基礎枠> 社会の諸課題に対応するため、自然科学の「知」と人文・社会科学の「知」との融合による「総合知」を創出・活用した先進的な理数系教育に関する研究開発を実施。

<SSH指定校への追加支援>

【重点枠】※重点枠の新規公募は、令和8年度をもって終了予定

- 令和8年度重点枠数：
19校+1コンソーシアム程度（うち新規：8校程度）
- 指定期間：最長5年
- 支援額：10～13百万円/年
- 類型
- <広域連携> SSHで培った成果等を広域に普及することにより、地域全体の理数系教育の質を向上。
- <海外連携> 海外の研究機関等と連携関係を構築し国際性の涵養を図るとともに、将来、言語や文化の違いを越えて共同研究ができる人材を育成。
- <革新共創> 社会問題・地域課題について、文理横断的な領域も含めた科学的な課題研究を行い、新たな価値の創造を志向する人材を育成（アントレプレナーシップ教育等）。

【重点配分】※令和9年度からの事業改革に向けた先行的・試行的実施

- 令和8年度採択数：9校程度（新規）
 - 指定期間：5年
 - 支援額：1.5～5.5百万円/年
- 人材育成戦略等に応じて、指定校が取組を一層高度化させるための追加的な支援を実施。

【認定枠向け加速支援】※令和9年度からの事業改革の一部先行実施

- 令和8年度採択数：6校程度（新規）
 - 支援額：3百万円/年
- 取組の更なる高度化に向け、追加の研究開発等を支援。

支援内容

- 学習指導要領の枠を超え、理数を重視した教育課程の編成
- 国内外の高校・大学等との連携、課題研究の実施等に係る費用（旅費、物品費、等）の支援

<管理機関への追加支援>

【SSHコーディネーター】

- 令和8年度配置数：
20機関程度
- 支援額：6.6百万円/年
- 令和5年度より開始

以下目的を達成するため希望するSSH指定校の管理機関（教育委員会等）に「SSHコーディネーター」を配置

- SSH指定校や地域の探究・理数系教育の充実
- 域内外の学校への成果普及
- 外部機関との連携を推進
- SSH指定校の自走化

成果

- 研究者をはじめとするSSH卒業生が、国内外で活躍
- 学習指導要領改訂（科目「理数探究基礎」「理数探究」の新設）
- 科学技術への興味・関心や姿勢の向上、理数系への進路選択
- 国際科学技術コンテスト等での活躍

各期原則5年とし、期を進むにつれ取組を高度化・深化させる

